

「広瀬川創生プラン2025-2034(中間案)」に対する 意見の概要と本市の考え方について

※文中に記載のあるページ番号は、中間案のページ番号です。
※「No.」に網掛けのある項目は、最終案への反映を予定しています。

(1)背景や目的に関する意見 (1件)

No.	意見の概要	本市の考え方
1	第1章「(1)策定の背景と目的」に、杜の都の所以となったこと(四ツ谷用水が市井を流れたことで地下水の涵養をもたらしたこと)を挿入できないか。	第1章「(1)策定の背景と目的」(プラン中間案p13)に、杜の都の所以となった四ツ谷用水の役割について、追記する予定です。

(2)施策の方向に関する意見 (9件)

(1/2)

No.	意見の概要	本市の考え方
2	広瀬川の清流を守るため、中州の除去工事を最優先にすべき。特に霊屋橋から下流、鹿落坂の下が酷く、川原で安心して遊べない。 また近年の大雨による洪水を懸念している。一旦洪水が発生すると川全体の形状が変化してしまう。	本プランでは、安全安心な川づくりを推進することとしております。(プラン中間案p28「施策の方向⑤」) その取組みの1つとして、河川管理者である宮城県では「広瀬川管理計画」に基づき、洪水時の水の流れに支障となる中州等を除去することとしております。 (プラン中間案p32「各施策の方向における主な取組事業」に記載)
3	清流の保全に関わる、合流式下水道区域における、改善事業をさらに進めること。	本プランでは、広瀬川の清流の保全を推進することとしております。(プラン中間案p26「施策の方向②」) その取組みの1つとして、本市下水道部局では、合流式下水道改善事業を進めているところであり、引き続き、担当部局と連携しながら広瀬川の清流の保全に努めてまいります。 (プラン中間案p31「各施策の方向における主な取組事業」に記載)
4	雨水の下水管への流入を遅らせる方策である、雨水貯留、雨水浸透を広めること。 行政での改善事業も進められているが、市民ができる対策(雨庭、雨水タンクの設置等)に関するサポートなどを検討することで、市民の行為が清流保全に寄与できる事例としての位置づけにもなる。 また、雨天時放流について、中心市街地からの雨水の放流をできるだけ遅らせる、減少させる取組み(屋上緑化、屋上雨水貯留等)を、義務化するなど、対応を強化することを求める。	本プランでは、安全安心な川づくりを推進することとしております。(プラン中間案p28「施策の方向⑤」) 治水対策の推進には雨庭の設置など行政だけではなく市民や企業などの協力が重要であると認識しており、プラン中間案には雨水対策に関する理解を深める活動の実施を新たに記載したところです。 本市「みどりの基本計画」においても重点的な取組みとして雨水対策を掲げていることから、担当部局と連携しながら雨水対策の推進に努めてまいります。

No.	意見の概要	本市の考え方
5	第1章「(2)改定のポイント」に記載のある、グリーンインフラの取り組みも強調したらどうか。	施策の方向⑤「安全安心な川づくりの推進」(プラン中間案p28)の取組み例として、グリーンインフラの代表的な取組みである、「雨庭」を掲載しております。
6	第2章「1 基本理念」「2 基本目標と施策の方向」に加え、プランのロードマップは必要ではないか。	本プランでは、目指す広瀬川の姿として、3つの基本理念や5つの基本目標を定め、活動団体の皆さまがそれぞれの立場で可能な取組みを実施し、協議会や仙台市がその活動の支援などを行う推進体制としております。取組みの内容は多種多様であり、本プランにおいて一律のロードマップを作成することは課題が多いものと認識しておりますが、毎年、本市において取組事業の実施状況を把握し、協議会の中で課題を整理したうえで活動団体等へフィードバックを行うことで、基本理念の実現に向けた各般の取組みを進めてまいります。
7	広瀬川に興味・関心を持つ人を増やすためのイベントを実施するべき。(アイデアコンテスト等の企画イベントの継続的な実施や、広瀬川の歴史や魅力を伝える勉強会や探訪会の開催など。)	プランでは、広瀬川への関心を高めるための催しの実施を推進することとしております。(プラン中間案p29「施策の方向⑨」) いただいたご意見については、本施策を推進するうえでの参考とさせていただきます。
8	「広瀬川に関する学びの取組み」として、広瀬川に関する歴史についての学びに取組むとあるが、まずは河川とともに暮らしていた経験のある市民から十分にヒアリングするなどのプロセスが重要ではないか。実体験のある方が減りつつあるため、遅きに失しないように取り組むことを明文化するよう提案する。 冒頭で「広瀬川が市民の身近な存在であることを再認識してもらえ取組みを推進します。」とあるが、「もっと身近な存在であったことを再認識してもらえ」など、暮らしの文脈では以前と比べ全く身近でなくなっている現実を前提とした記述にする必要もあるのではないか。	ご意見を踏まえ、施策の方向④「広瀬川に関する学びの推進」(プラン中間案p27)の中に、広瀬川との暮らしに関わりがあった方々との連携について追記し、広瀬川に関する学びを推進していく予定です。 また、「もっと身近な存在であったことを再認識してもらえ」については、ご意見を参考に関連する取組みを進めてまいります。
9	「水辺空間を楽しめる取組み」として、都市緑化フェアに際して整備された「せせらぎ水路」は画期的なものだと考えられるため、本プランにおいても取り上げ、モデルとして拡大していく方向性を示すことはできないか。	ご意見を踏まえ、施策の方向⑦「水辺空間を楽しめる取組みの推進」(プラン中間案p28)の取組み例として「せせらぎ水路」を掲載し、多様な市民の誰もが水辺空間を楽しめるような取組みを推進していく予定です。
10	「市民への情報発信」において、川との付き合い方がわからない市民に、安全上の情報をより具体的に発信していくことが大切ではないか。 水位情報などもリアルタイムで入手できるようになっているため、その数値をどう読み込んだらよいのかといった実用的な話も紹介できるようにする、そのような方向性もプランの中で示せないか。	いただいたご意見を参考に、広瀬川を訪れる方々が安心して水辺を楽しめるよう、安全に係る情報発信の取組みについて検討してまいります。

(3)推進体制及び評価に関する意見 (12件)

(1/2)

No.	意見の概要	本市の考え方
11	プランの実効性を高めるため、仙台市が河川管理者となり、推進体制を強化すべき。 そのため、プランへ「広瀬川の河川管理者となるよう関係機関との協議を進める」旨の追記を検討してみたいかがか。	本プランでは、「活動団体同士の連携・協力」や「小規模イベントへの支援」、「更なる魅力の発信」などを盛り込み、基本理念の実現に向け、協働で取り組んでいくこととしております。 併せて、宮城県など河川管理者と情報共有を密にするなど連携しながらプランの実効性を高めてまいりたいと考えております。 いただいたご意見については、今後の取り組みの参考にさせていただきます。
12	プランの主体は市民・住民でもあることを明記してはいかがか。(協働とはそれぞれが主体的であるという認識)	本プランは、広瀬川での活動団体と協議会、仙台市とが協働で取り組んでいくためのアクションプランであり、市民や企業・団体の皆さまは協働のパートナーとして位置付けております。
13	第3章「1 推進体制」について、活動団体、協議会、仙台市のみならず、個人＝市民 という表記、捉え方をしたいかがか。 推進体制図の市民・企業団体も「広瀬川での活動団体」の枠に入れるか、「協働のパートナー」の中に活動団体をいれてはいかがか。	本プランに賛同いただけた方々が新たに活動を立ち上げ、活動団体として参加すること、もしくは既存イベントに対して参加や支援することで、広瀬川に関わる取組みのより一層の推進が図られるよう、支援してまいります。 (プラン中間案p37「推進体制」に記載)
14	第3章「2 各主体の役割」に、支援する側(協議会、仙台市)とされる側(活動団体)を明記していただきたい。 また、活動を希望する人へ、きっかけとなる相談窓口やイベントがあればよいため、(4)として記載してはいかがか。	支援する側とされる側の関係性については、推進体制(プラン中間案p37)に明示しておりますが、「2 各主体の役割」において、協議会や市が活動団体を支援する旨を記載する予定です。 また、仙台市が相談窓口を担うことについても併せて記載する予定です。
15	第4章「1年ごとの取組状況の把握」にある公表について、活動団体が一同会する場を設けてはいかがか。各団体の発表、フィードバック、公表する場を設けることで、各団体の交流にもなる。 また、市民も参加できる、見ることができる機会とすれば、活動へのきっかけとなるのではないか。	
16	それぞれの施策での取組事業を、継続する手法、仕組みについて、現在の取組の好事例や失敗事例等をしっかり評価し、課題の整理(改善)を行うことが重要ではないか。(各団体とも、人員や予算不足、高齢化、担い手不足など運営に関する課題がある。)	本プランでは、毎年、取組事業の実施状況を把握し、協議会の中で課題の整理を行うこととしております。また、課題等あれば対応方針について協議会と仙台市で検討し、活動団体へフィードバックすることとしております。(プラン中間案p43)
17	地域を超えた活動団体同士の交流や、活動を紹介する場を設けるべき。 例えば、広瀬川フォーラムを開催し、各団体の活動のパネル展示、広瀬川に関する講演を行うほか、広瀬川上下流での見どころ探訪会などを実施する。 また、制作したパネルは緑彩館等で、各種イベントの際に貸し出し展示する。 さらに、同じ広瀬川の名を持つ地域との交流や連携(東北地方5河川、全国13河川)を呼び掛け、持ち回りで広瀬川サミットの開催を検討する。	また、推進体制の中で「交流会」の開催を明記しておりますので、いただいたご意見を参考に、「交流会」の内容を検討してまいります。(プラン中間案p37)

No.	意見の概要	本市の考え方
18	仙台市の助成金は提出資料が非常に多いイメージがある。活動の支援として、助成金に係る提出資料の作成サポートやアドバイスをいただける体制があればよい。 あるいは、そのようなスキルのある職員や人材の紹介など、協力が得られる仕組みを検討いただきたい。	本市へ提出する資料については、可能な範囲で簡素化や分かり易い内容になるよう努めてまいります。 また、作成サポートやアドバイスについては、本市の担当部署へご相談いただければ対応いたします。 人材の紹介などの協力が得られる仕組みづくりについては、今後の取組みの参考とさせていただきます。
19	広瀬川創生プラン策定推進協議会やNPO、各種団体、学校関係、協賛企業などが広瀬川市民会議の構成団体やメンバーとなり、継続的な推進体制の仕組みや広瀬川フォーラムのような交流のための機会の創出を検討してはいかがか。	本プランに明記した交流会の開催は、担い手不足に悩む各活動団体の継続的な活動の一助となるものと認識しております。できるだけ多くの団体が様々な情報交換・共有ができるよう検討してまいります。(プラン中間案p37)
20	「小規模イベントへの支援の必要性」を課題と整理されている点、賛成です。大規模イベントは関わる人数も組織も多くなり、必要な経費も主催者の負担も相当大きいものと想像します。小規模なイベントでも気軽に実施でき、また、これまで活動されてきた先駆者の方々のノウハウが上手く継承されていくと良いと思います。	本プランでは、小規模イベントへの支援とネットワークづくりのための仕組みの強化を行うこととしております。これにより、イベント頻度の向上につながるほか、これまで活動されてきた方々のノウハウの継承にもつながるものと考えております。 新たなプランに基づき取組みを推進することで、広瀬川の魅力を伝えてまいります。
21	イベントの頻度がもう少し高ければ、川辺に足を運ぶ機会も増えて良い。実行委員会などの大掛かりな組織でなくとも、イベント等を支援できる仕組みがあればと感じる。	
22	広瀬川市民会議や協議会の支援を、広瀬川で活動する団体だけでなく、普段は川辺が主な活動場所ではない団体が広瀬川で事業を実施する際にも受けられると、活動のすそ野が広がるのではないか。	広瀬川以外で活動を行ってきた活動団体であっても、広瀬川で実施する事業の内容がプランの主旨に合致する場合は、支援してまいります。

(4)その他の意見（4件）

No.	意見の概要	本市の考え方
23	コロナ禍を機にペット需要が高まっていることから、市営の無料ドッグランを設置すべきである。	本プランでは、水辺空間を楽しめる取組みを推進することとしております。（プラン中間案p28「施策の方向⑦」）ドッグランは、人々が集うことで新たなコミュニティの形成や賑わいをもたらす効果があるものと認識していることから、今後の取組みの参考とさせていただきます。
24	冊子のデザインについて、テキストのように使えるとよい。（自身の活動の際に使用していきたい） また、ユニバーサルデザイン（ふりがな、点字、音声朗読版）や、後世に伝える表現、世界へ伝える表現（英語版、動画等）にしてみたいか。	本プラン策定に併せて内容をコンパクトにまとめた概要版の作成を予定しております。テキストとしての活用も可能と考えておりますのでご活用ください。 また、本プランの冊子作成にあたっては、ユニバーサルデザインへの配慮として「UDフォント」を採用するなど、より多くの人が読み易いプランとなるよう配慮しております。 いただいたユニバーサルデザインの考え方については、今後の取組みの参考とさせていただきます。
25	広瀬川を訪れる方が、大切な記念日などだけでなく、日常の何気ない訪問も含めて、デジタルで思い出を記録できる仕組み「デジタルで紡ぐ広瀬川の記憶と交流」の導入を提案する。 これにより、地元の方も観光客も、自分のペースで広瀬川との繋がりを深めながら、より身近で愛着のある場所と感ずることができるようになる。 また、広瀬川で撮影・記録した写真やメッセージは、現地でしか閲覧できないように設定することで、訪れること自体の価値を高め、再訪の動機づけに繋げていくことができる。 こうした仕組みは、地域の交流促進や訪問者の増加にもつながると考えられる。	本市では、広瀬川ホームページと広瀬川Instagram、YouTubeチャンネルを運営しており、この中で広瀬川での取組みや魅力に関わる情報を発信しております。 いただいたご意見も参考にしながら、市民や観光客の皆様、若者にとってより魅力的な広瀬川と思ってもらえるような情報発信に努めてまいります。
26	市民への情報発信は、広瀬川ホームページや広瀬川Instagramでは足りないのではないか。 YouTube(short動画)ヘドローンで撮影した広瀬川の様子を投稿することや、マイクラフトに広瀬川流域ワールドを作成し公開するなど、若者へのアプローチを増やすべきではないか。	